

～取組状況～ 信濃川中流及び魚野川大規模氾濫に関する減災対策協議会

- 信濃川・魚野川が合流し背後の山に挟まれた長岡市東川口地区では、地域住民主体の防災ワークショップが開催され、地域の防災に関する課題や改善方策について議論された。
- 議論では、専門家（大学研究者等）がファシリテータとして参加したほか、行政機関（信濃川河川事務所、長岡市）からは水害リスクや防災情報の入手方法等について解説。
- 地区では、このワークショップでの議論を経てより良い防災訓練につなげ、地域防災力の向上を図っていくこととしている。将来的にはマイタイムラインのようなものを作成することも視野に、まずは避難に関する基本行動を作成することを検討している。
- 本取組については、当該地区住民、学識者を減災協議会に招き、事例として紹介するなど、協議会を通じて、順次展開を図っていく予定。

■ 長岡市東川口地区防災ワークショップの様子



参加者からの感想

- 水害は毎年起こりうるものと考え、準備を常にしておくことが重要。水害時は情報が足りないと感じたので、色々なことを発信して欲しい。
- 住民全体での話合いの時間が有意義だった。今後、災害に対する認識を今以上持つべきだと痛感した。
- 各自の水害体験を聞いて参考となった。

※本ワークショップは、防災科学技術研究所 気象災害軽減イノベーションセンター長岡サテライトの事業の一環で実施されている。

東川口防災訓練の中で防災ワークショップを実施。最初に東川口地区の水害リスクの把握ということで、関係機関より説明。

信濃川河川事務所では、魚野川の氾濫リスクについて解説を行った。

地区ごとの班に分かれ、まず7月の豪雨を振り返り、避難行動について意見交換。次に魚野川の氾濫リスクについて意見交換を行った。魚野川の氾濫リスクの解説を聞いて、自分の家が浸水する事を知ったという意見も聞かれた。